

5.2 社会環境要因からみた植生の解析

社会環境要因として、人口とのかかわりから分布の状況を解析した。

主な植生の人口とのかかわりを図Ⅱ.5.41に示す。

寒帯・高山帯～ブナクラス域の自然植生である、高山低木群落、高山ハイデ及び風衝草原、雪田草原、高茎草原及び風衝草原、亜寒帯・亜高山対針葉樹林、日本海側のブナ林の出現メッシュは、人口0人/メッシュの地域が9割以上を占めている。

一方、ヤブツバキクラス域の自然植生についてみると、照葉樹の自然林である、シイ林、タブ林、カシ林、海岸風衝低木林の出現メッシュは、人口0人/メッシュの地域は上記自然植生と比較して少なく、6～7割程度しかみられていない。また、モミ林では、9割以上の出現メッシュが人口0人/メッシュの地域となっている。

代償植生についてみると、人口0人/メッシュの地域は、ブナ二次林では9割以上を占めている。しかし、ミズナラ・シデ林では約8割程度、コナラ林、シイ・カシ萌芽林、アカマツ林では、5割程度の地域しかみられていない。

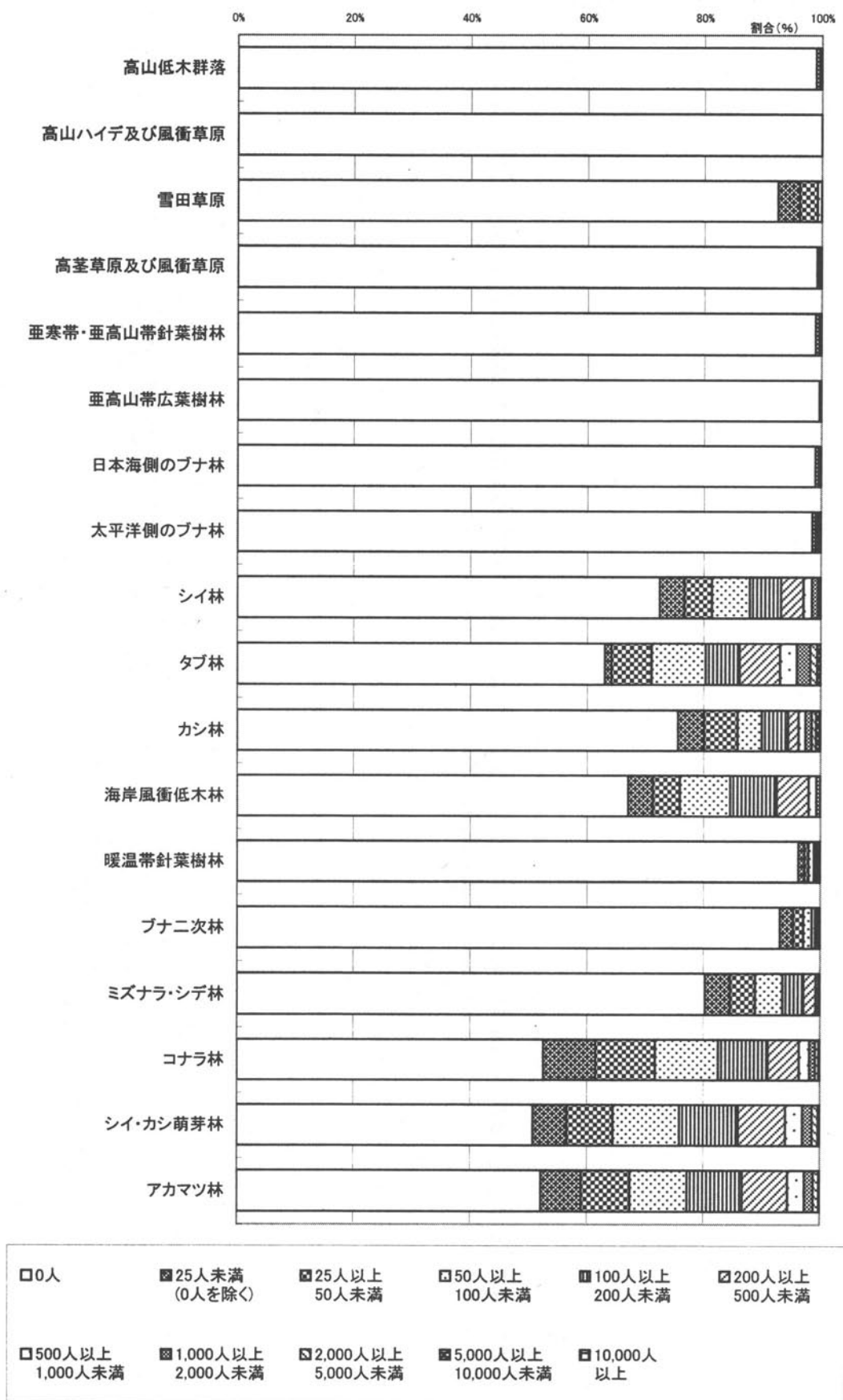
そこで、人口の多いメッシュの占める割合が高い、照葉樹林、ミズナラ・シデ林、コナラ林、アカマツ林、シイ・カシ萌芽林、について、人口と標高とのかかわりからみた分布状況を図Ⅱ.5.42～Ⅱ.5.46に示す。

照葉樹林についてみると、人口10～1,000人/メッシュ、標高200m以下の地域を中心に分布している。そのなかで、九州・沖縄地方では、標高800m以上の地域においても人口0人より多いメッシュが出現している。

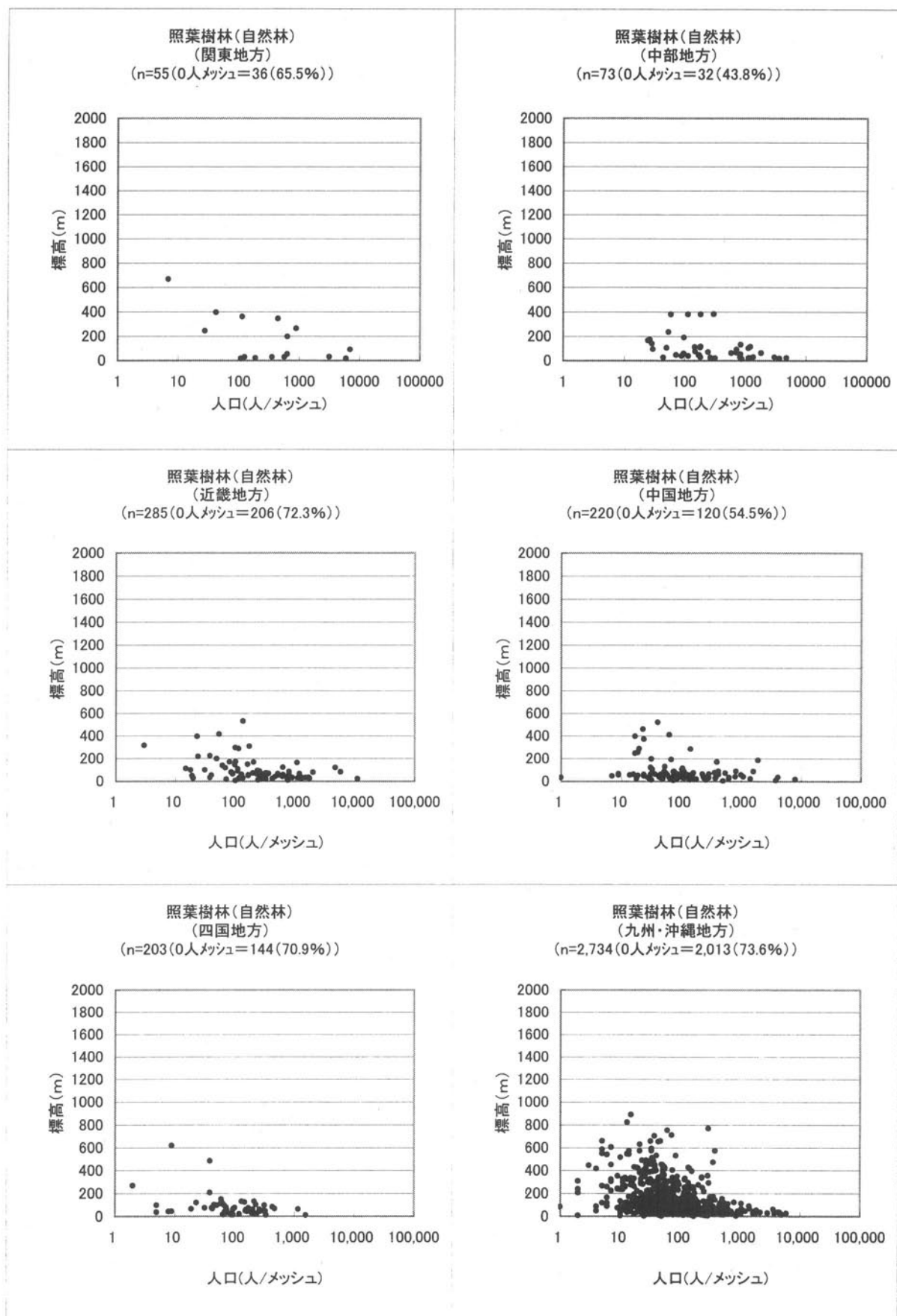
ミズナラ・シデ林についてみると、コナラ林、アカマツ林、シイ・カシ萌芽林と比較して、人口0人より多いメッシュがより高海拔地域でみられており、関東地方、中部地方では標高1,000m以上の地域でも多くみられている。

コナラ林、アカマツ林は概ね類似した分布傾向がみられており、人口10～1,000人/メッシュ、標高600mの地域を中心に広く分布している。地方別にみると、近畿地方、中国地方では、アカマツ林はコナラ林なら林と比較して、人口1,000人以上のメッシュがより多くみられている。

シイ・カシ萌芽林についてみると、概ね照葉樹林と類似した分布傾向を示すが、四国地方では人口0人より多いメッシュが標高400m以上の地域まで多く出現しており、沖縄地方では、人口1,000以上のメッシュが照葉樹林の分布以上に多くみられている。

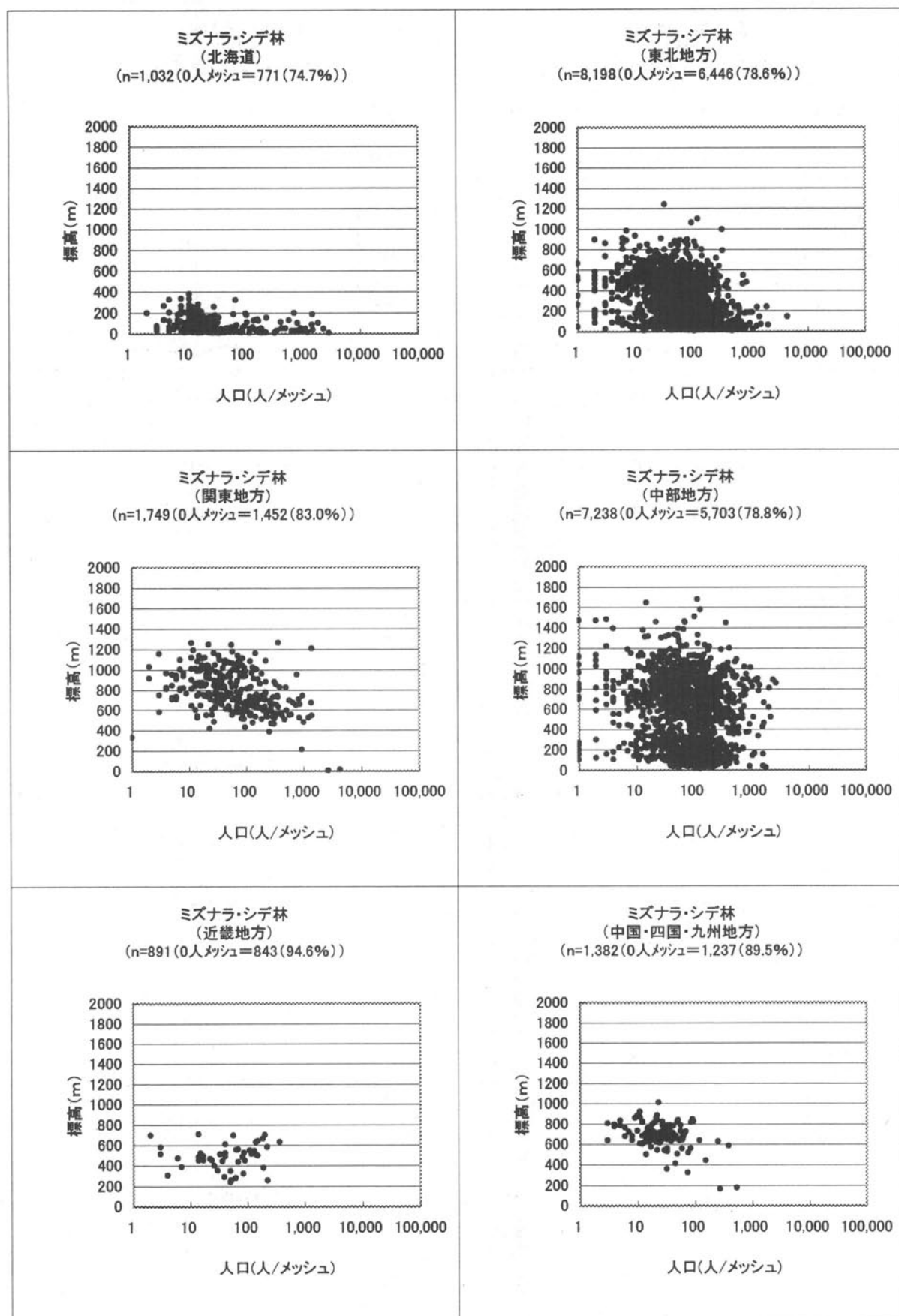


図Ⅱ.5.41 主な植生の人口界別の出現頻度



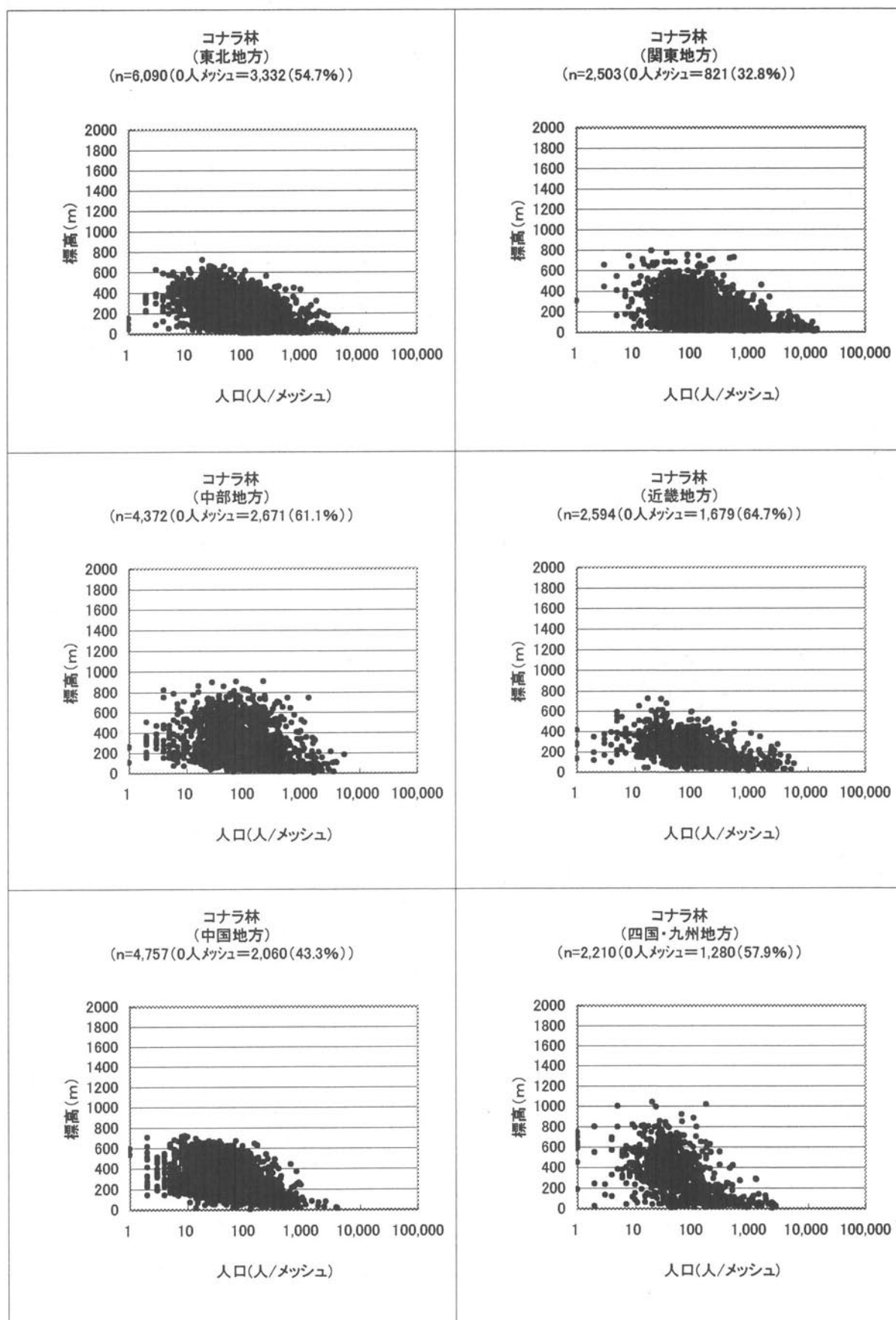
※人口0人メッシュを除く

図II.5.42 照葉樹林(自然林)の人口・標高との関係

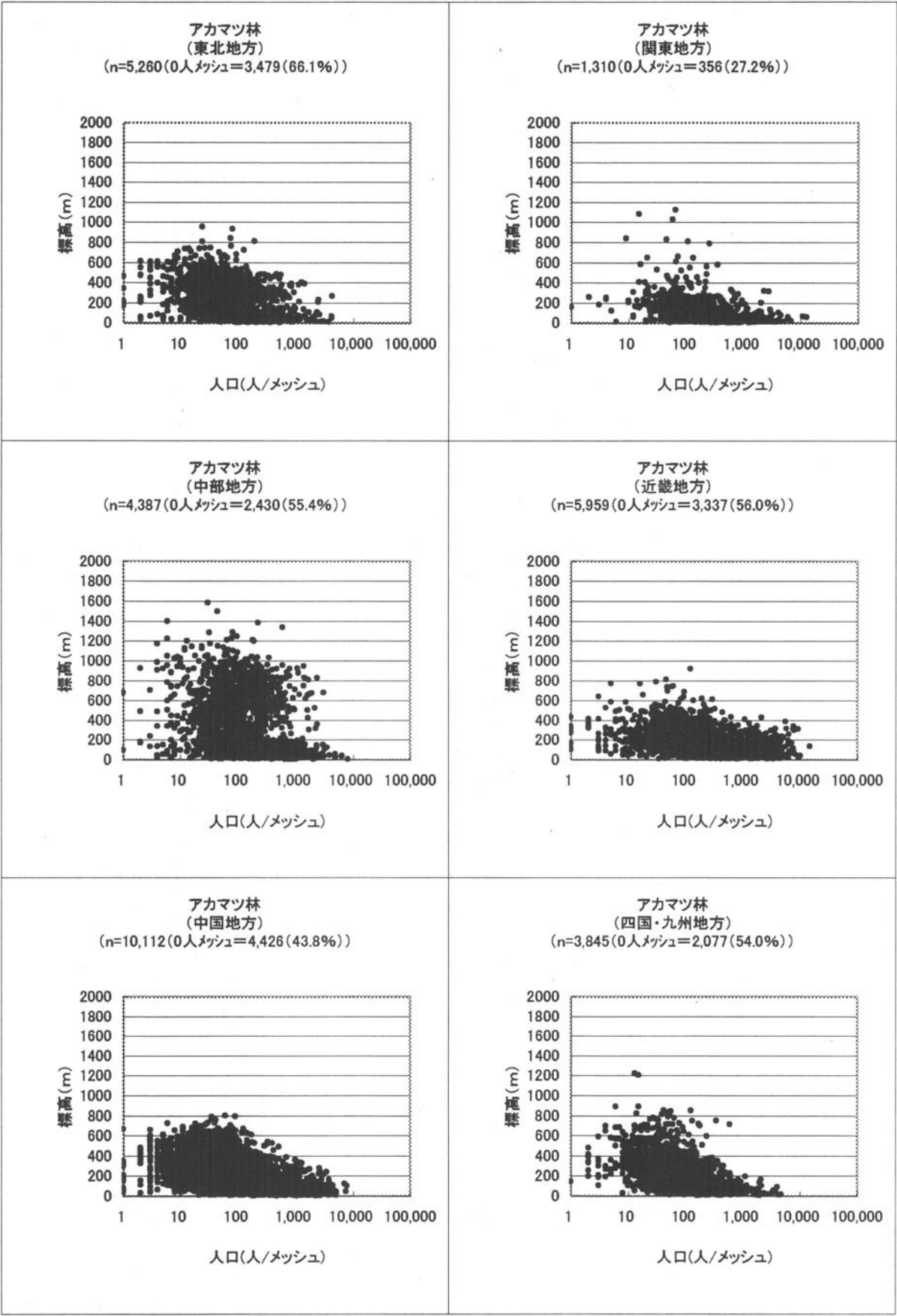


※人口0人メッシュを除く

図Ⅱ.5.43 ミズナラ・シデ林の人口・標高との関係

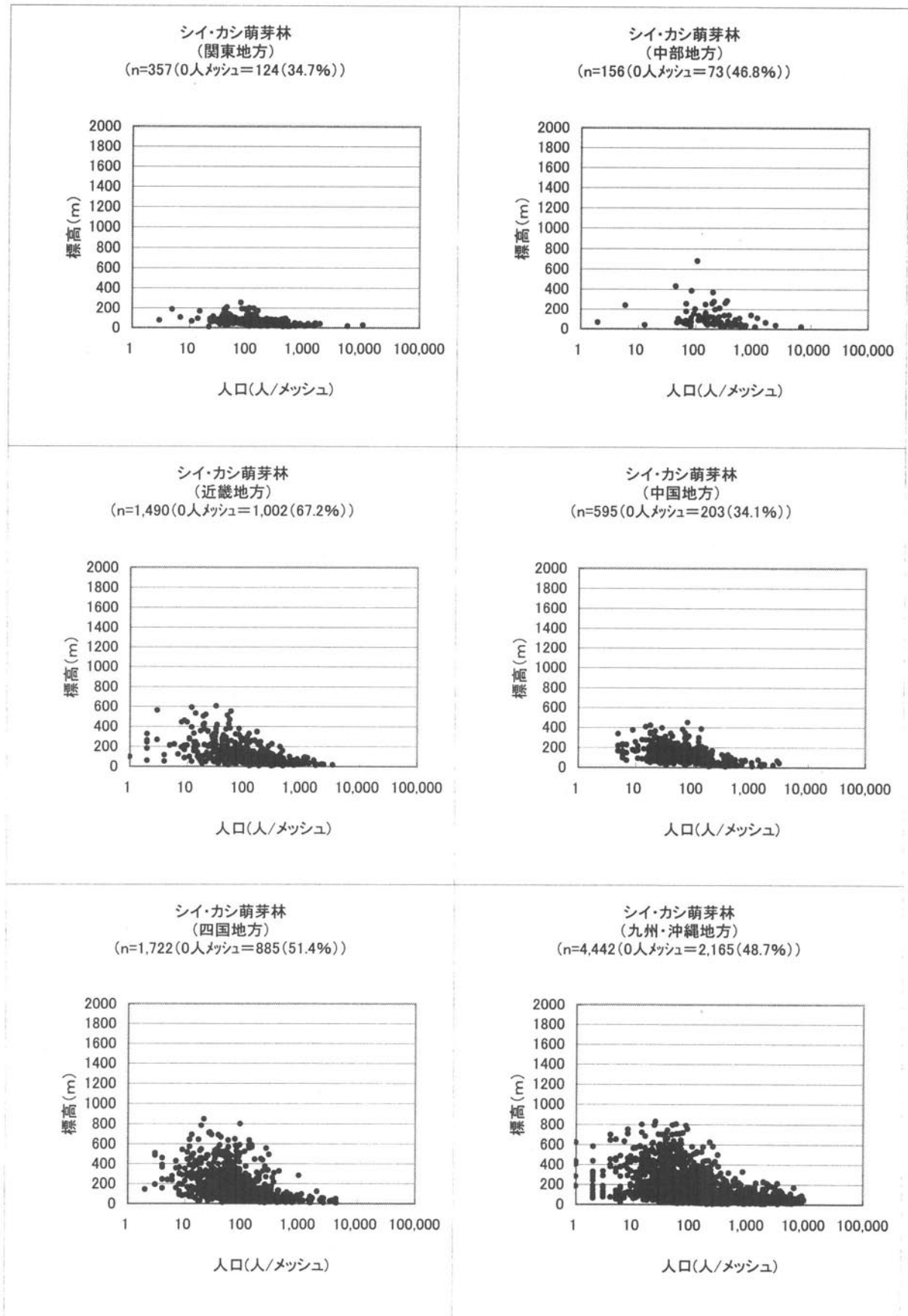


図Ⅱ.5.44 コナラ林の人口・標高との関係



※人口0人メッシュを除く

図 II.5.45 アカマツ林の人口・標高との関係



※人口0人メッシュを除く

図Ⅱ.5.46 シイ・カシ萌芽林の人口・標高との関係

